

令和7年度 発生予察情報	発生予報第 12 号（概要版）	令和7年 12 月 19 日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	------------------------	---



品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
いちご	うどんこ病	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並		

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第13号の発行日は令和8年1月20日（火）の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病虫害防除所 メルマガ

トップページ 登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第12号ーいちごー	令和7年12月19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	---------------------------

ー1 月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:12月16～17日

天候予報:仙台管区气象台 12月18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、発病株率は平年並であった。(/±)
(2)日照不足が発病に好適であり、向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く(/ー)、寄生株率は平年並であった。(/±)
(2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く(/ー)、寄生株率は平年よりやや低かった。(/ー)
(2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- IPM体系による防除を詳しく知りたい方は下記アドレスにアクセス願います。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

- 天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

- ・適切な温湿度管理、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。
- ・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。また、一見病徴が見えない場合でも、うどんこ病に効果のある殺菌剤をローテーションに組み込み、防除を実施する。

(3)コナジラミ類

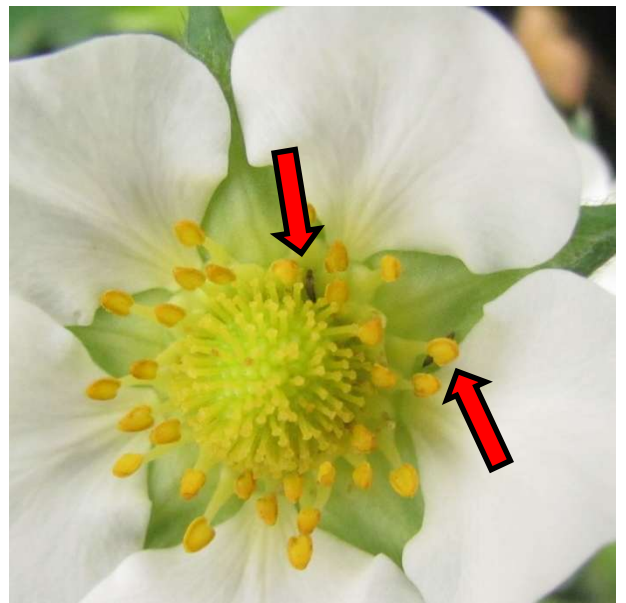
- ・主に葉裏にいたので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。
- ・本ぽでラノーテープを用いる場合は、目安として、3ベッド(畝)毎に展張することで抑制効果が発揮される。
- ・ラノーテープは雌成虫が接触しないと効果が発揮されないため、作物の直上部に設置し、株から離れすぎないよう草丈に合わせて展張する。使用基準は、10aにつき10～50㎡である(テープ200m～1000mに相当)。

(4)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- ・化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、天敵や気門封鎖剤も活用する。
- ・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、葉害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して葉害の状況を確認する。
- ・気門封鎖剤の多くはハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないので、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニの卵が孵化した後2回目以降の散布を行う(ハダニ類は25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。

(5)アザミウマ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。
- ・化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、ククメリスカブリダニ、リモニカスカブリダニ等の天敵の活用も検討する。
- ・花をルーペで観察する、又は花を白い紙の上で軽く叩くか、軽く息を吹きかけるなどを行い、褐色～淡黄色の1～2mm程度の小さな虫がいるかを観察することで寄生状況を確認できる(右図:イチゴ花に寄生するアザミウマ)。



《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム